

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公表番号】特表2009-507148(P2009-507148A)

【公表日】平成21年2月19日(2009.2.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-007

【出願番号】特願2008-528479(P2008-528479)

【国際特許分類】

E 0 2 B 3/14 (2006.01)

【F I】

E 0 2 B 3/14 3 0 3

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年10月7日(2011.10.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

海底又は河口に存在する基礎である構造物に結合して固定され、粒度が 2 ～ 1 5 c m である石材及び樹脂からなる多孔質複合材料を含む沿岸保護用の装置。

【請求項 2】

構造物が、コンクリートからなることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 3】

全体が水面の下に存在することを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 4】

部分的に水面の上に存在することを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 5】

樹脂が、ポリウレタン、エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、アクリレート、及びメタアクリレートからなる群から選択されることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 6】

樹脂が、ポリウレタンであることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 7】

樹脂が、緻密なポリウレタンであることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 8】

樹脂が、疎水性の緻密なポリウレタンであることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 9】

樹脂が、エポキシ樹脂であることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項 10】

a) 海底又は河口に存在する基礎である構造物用の基礎構築工程と、

b) 粒度が 2 ～ 1 5 c m である石材及び樹脂からなる一種の多孔質複合材料を前記構造物に対して設置する工程と、

必要に応じて、

c) 石材及び樹脂からなる多孔質複合材料を前記構造物に固定する工程と、
を有することを特徴とする請求項 1 に記載の装置の製造方法。

【請求項 11】

石材及び樹脂からなる多孔質複合材料を、石材を樹脂の液体出発成分に接触させ、その

後、樹脂を硬化させることにより製造することを特徴とする請求項10に記載の製造方法。

【請求項12】

石材及び樹脂からなる多孔質複合材料を、陸上で処理し、これにより、得られた成形体を前記構造物に固着することを特徴とする請求項10に記載の製造方法。

【請求項13】

樹脂の液体出発成分を、前記構造物、及び／又は石材及び樹脂からなる多孔質複合材料に施与し、その後、複合材料と前記構造物を接触させ、樹脂の硬化で強固な結合が生じることにより固着が行なわれることを特徴とする請求項10に記載の製造方法。

【請求項14】

石材及び樹脂からなる多孔質複合材料の製造を、石材を樹脂の出発成分と接触させ、この混合物を構造物と接触させ樹脂を硬化させることにより行うことを特徴とする請求項10に記載の製造方法。

【請求項15】

石材及び樹脂からなる多孔質複合材料の製造を、石材を前記構造物に対して設置し、その後、樹脂の液体出発成分を添加し、次に樹脂を硬化させることにより行なうことを特徴とする請求項10に記載の製造方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

石材は、好ましくは、粗石である。その石材は、一般的にその粒度が1から50cm、好ましくは、1から20cm、特に好ましくは、2から15cm、さらに好ましくは、2.5cmから6.5cmである。